

富浦臨海

7月18日（木）から8月2日（金）にかけて、4期にわたって5年生と6年生が富浦臨海に挑みます。今回は、第Ⅱ期（6年女子）と第Ⅳ期（6年男子）の様子を合わせて紹介します。

学校の水泳の授業で練習を積んでいるとはいえ、海は常に危険と隣り合わせです。気を緩めることは絶対に許されず、集合・点呼・準備体操、その全てに緊張感がみなぎります。

6年生にとっての一つの大きな目標が、約1時間の遠泳となる「大遠泳」の完泳です。その大遠泳に挑むための最終試験となるのが、人工島へ到達することです。男子も女子も練習の成果を発揮して、全員が人工島まで泳ぎ切り、大遠泳挑戦の切符を手に入れました。



3日目の午後、いよいよ大遠泳に挑む6年生。緊迫した雰囲気子ども達を包みます。遠泳本番用の水泳帽が手渡され、隊列が発表されると、緊張が一気に高まりました。子ども達は、それぞれが役目を背負いながら「1匹の大きな魚」となって泳ぐのです。



6年生は、隊列を乱さぬよう、周りとの呼吸を合わせて泳ぎます。仲間を信じ、自分を信じた者だけが、この1時間を泳ぎ切ることができるのです。

これまでの練習の成果を全て出し切り、見事に完泳を果たした子ども達。その表情は、再考の達成感と充実感にあふれていました。温かいお汁粉を食べれば、遠泳の疲れは一気に吹き飛ぶというものです。



6年生になってからだけではなく、1年生から積み上げてきた大泉小学校の水泳練習の集大成となる富浦臨海。この富浦臨海を経て、子ども達は体も心も見違えるほどの成長を遂げるのです。